



〈ハノイ貿易大学の友人と。筆者右〉

「ハノイで学んだ対応力」
〈大学間協定留学（交換型）〉
ハノイ貿易大学（ベトナム）
情報コミュニケーション学部4年
杉山綾

2015年8月から約1年間、ベトナムのハノイ貿易大学へ留学しました。帰国してからしばらく経ち、1年間を振り返ってみても、留学することを決めてベトナムに行って良かったと心から思っています。留学を決めた理由や留学先でのことについて、書かせていただきます。

高校生の時にネパールに行ったことをきっかけに国際協力に関心を持ち、大学入学後に2年ほど学生の団体に所属し、1年生の頃には長期休暇中にフィリピンへ2度の渡航を経験しました。そこでの経験などを通して、食糧問題を改善するのに繋がると考えた—経済や貿易を学びたいと、1年生の終わり頃に思うようになってきました。高校の頃から漠然と留学をしたいという思いは持っていましたが、確固とした学びたいことが見つからずにはいません。ただ、経済という学びたいことが見えてきたため、1年間の留学を決めました。

留学先を選ぶ際にも、国が発展の最中にあり、経済発展が与える良い面や悪い面を見ることができるとような国に留学したいと考え、ベトナムを選びました。大学を選ぶ際には経済を重点的に学べるだろうということが決め手となり、ベトナムの首都ハノイにある国立大学のハノイ貿易大学を留学先としました。



ハノイ貿易大学は英語では Foreign Trade University と表記するのですが、その名の通り、一部の学部を除いて、経済やビジネスに関連する学部がほとんどを占めています。また、専攻ごとに、全ての授業がベトナム語で実施されるコース、一部の授業が英語で実施されるコース、一部を除きほとんどが英語で実施されるコースと分かれていました。出願時に留学先での専攻を指定する欄があったため専攻を決めてから留学しましたが、留学生はコースに関係がなく、英語で実施されている科目であれば自由に選択することができました。授業は週に2回、1コマ2時間15分程度あったため、長時間の授業に慣れるまではその長さにとっても戸惑いました。

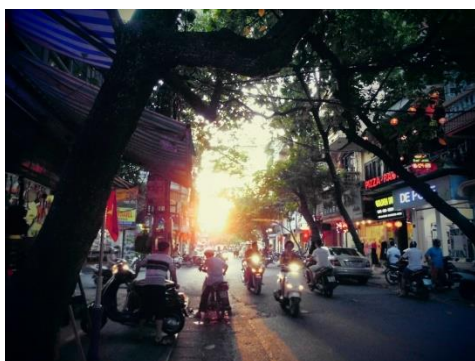
授業開始の週は、お試しの期間で様々な授業が受講できる期間ですが、この期間に教室や開講時間自体の変更が大変多く、いくつか選択肢として考えていた授業の中でも少しか受講できないといったこともありました。授業の変更だけでなく、ベトナムでは物事が直前に変更されることが日本よりも多いように思います。最初はそれに全く慣れず、特に度重なる授業変更などでは、授業を受講できない焦りなどが重なりとてもストレスになっていました。今ではそれも懐かしい思い出として振り返ることができますが、留学して最初の頃は、他の国での慣れない生活で肉体的にも精神的にも疲労が溜まり、些

細なことでも嫌になってしまうことが授業変更を含め、何度かありました。

ただ、目の前のこと一つ一つに取り組んでいくことで、徐々に留学する前よりも物事に柔軟に対応できるようになったり、急なことにも動じなくなったり、プラスな方向に変化できたのではないかと感じています。余談ですが、おかげでハノイ滞在中には一週間の断水にも耐えることができました。

大学では経済の授業を中心に、関心のある授業を専攻問わず履修していました。大学での授業は全て英語で実施されていましたが、それとは別にベトナム語の授業を受講し、大学以外の場所ではそこで学んだベトナム語を使うようにしていました。ベトナム語を少しでも話すと、生活し易くなるだけでなく、大学の学生以外の人とも少しだけコミュニケーションが取れることができるため、より普通の生活が楽しくなりました。

また、留学中には同じ大学のベトナム人の学生やハノイでお仕事をする日本人の方など、とても多くの人との出会いがありました。バックグラウンドも年齢も異なる人たちから多くのことを学ぶことができ、そのような方々と関わられたのもハノイにいたからだと思います。



留学期間中の勉強で疑問に思っていたことの答えが全て出た訳ではありませんし、残り少ない在学中にも引き続き経済の勉強をしていこうと考えています。

卒業後は米穀に関連する会社へ就職する予定であり、ビジネスの面から食糧問題に取り組むことができると考えています。また、ベトナムにも拠点がある会社であるため、数年後には仕事でベトナムに関わることができればと思っています。

MEIJI UNIVERSITY

*協定留学等、明治大学の留学制度について詳しくは[こちら](#)をクリック